

# Geospatial.jp G空間情報センター

ニュースレター 第52号 2025年11月発行

## 【目次】

- [1. 【TOPICS】 3D GEOINFO & SDSC 2025 の開催報告](#)
- [2. 上位アクセス状況\(集計期間：2025.9.1-10.31\)](#)
- [3. 最新のお知らせ](#)
- [4. デジタルツインが拓く、空間情報の新たな可能性](#)
- [5. 「3D 地理空間情報の活用推進に向けた提言書」を関係機関へ提出](#)
- [6. 【動画公開中】 UDC2025 中間シンポジウム](#)

## 1. 【TOPICS】 3D GeoInfo & SDSC 2025 の開催報告



一般社団法人  
社会基盤情報流通推進協議会

守屋 三登志

### 1. 3D GeoInfo & SDSC 2025 の概要

2025年9月2日から5日の4日間にわたり、東京大学柏キャンパスにおいて、第20回 International 3D GeoInfo Conference 2025（以下、3D GeoInfo）と第9回 International Smart Data and Smart Cities Conference（以下、SDSC）の同時開催となる、3D GeoInfo & SDSC 2025 を東京大学空間情報科学センター（CSIS）と国土交通省都市局が主催となり開催しました。これら二つの国際会議は世界各国で開催されてきましたが、日本では今回が初めての開催となります（表1）。

表 1：近年の会議開催地

	3D GeoInfo	SDSC
2024	ビーゴ/スペイン	アテネ/ギリシャ
2023	ミュンヘン/ドイツ	未開催
2022	シドニー/オーストラリア	
2021	オンライン	シュトゥットガルト/ドイツ
2020	オンライン	オンライン
2019	シンガポール	クアラルンプール/ マレーシア

3D GeoInfo は、3D 地理空間情報科学に関する最新技術について産官学で議論することを目的とする国際フォーラムです。また、SDSC は、40 年以上の歴史を持つ都市データ管理学会の年次大会であり、都市分析、GIS、デジタルツイン、スマートシティ、データサイエンスの分野を中心として、未来の都市を計画し、形成するためのデータや技術の活用を議論する国際フォーラムです。

(一社)社会基盤情報流通推進協議会 (AIGID) 及びアジア航測株式会社が会場の手配や備品の準備、会期中の案内等の運営を中心となり実施しました。

## 2. 3D GeoInfo & SDSC 2025 の内容

本会議には、国内外から 194 名の参加がありました。日本からの参加者 65 名に加え、海外からはドイツ、中国、オランダ、シンガポール等 31 の国と地域から 129 名の参加がありました。参加者のうち一般参加は 122 名、学生参加は 58 名、基調講演者等の招待者は 14 名でした。

学会期間中は、基調講演、口頭発表、ポスターセッション、交流イベントが行われました。基調講演は、日本からの 2 名を含む 8 名の有識者が 3D 地理空間情報技術、スマートシティ、標準化、市民参加など、多角的な話題提供を行いました。

口頭発表は 85 編あり、3D GeoInfo 及び SDSC の関心領域である 24 のセッションに振り分けられ、2 会場並行での進行となりました(図 1)。最も優秀な論文 (Best Paper Award)、最も優秀な学生論文 (Best Young Researcher Award) 及び最も優れた口頭発表 (Best Oral Presentation Award) を学会ごとに選定し、対象となる論文の表彰を行いました。さらに、スポンサー表彰 (Sponsor Award) として、プラチナスポンサーである株式会社ユーカリヤ (Re:Earth) 及び株式会社フォーラムエイトの 2 社からも、将来性のある技術に賞が授与されました。

ポスター発表は 13 編あり、ポスター発表中は、口頭発表セッションを設定しなかったことから、ポスター会場は、多くの参加者でにぎわうことになりました(図 2)。

参加者の交流の場として、1 日目には柏キャンパス内のカフェテリアにて Welcome reception を、2 日目には柏の葉カンファレンスセンターにて Gala Dinner を開催しました(図 3)。Gala Dinner ではエンターテイメントとして三味線の演奏とけん玉のパフォーマンスが披露され、特に海外からの参加者から喝采を浴びていました。



図1 (左)：口頭発表の様子

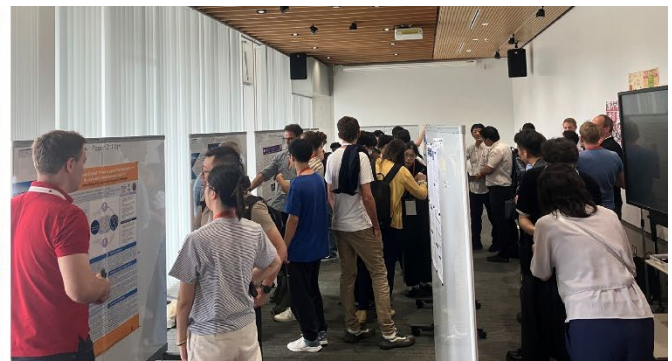


図2 (右)：ポスター発表の様子

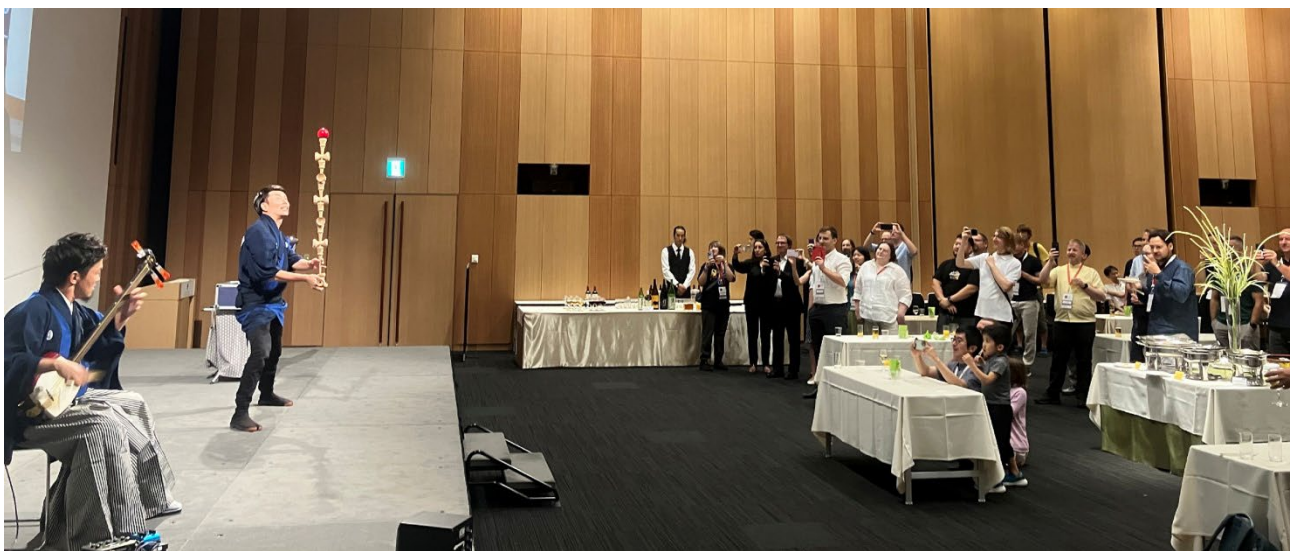


図3：Gala Dinnerでのけん玉パフォーマンス

### 3. おわりに

3D GeoInfo と SDSC はこれまでは日本からの参加がほぼない国際学会でしたが、今回の開催をきっかけに日本からの参加が増え、研究の深化や社会実装につながる交流の場となれば幸甚です。

なお次回は、2026年9月28日から10月2日までブルガリアのソフィアにおいて、3D GeoInfo、SDSCに加え、国際測量者連盟（FIG）が主催するワークショップ LADM & 3D という三つの会議体の合同開催となります。また、本開催報告に関しては、一般社団法人日本写真測量学会発行の「写真測量とリモートセンシング 2025 vol.64.no5」に掲載の開催報告より一部内容を引用し作成しております。





図4：閉会式後の集合写真

#### ■3D GeoInfo & SDSC 2025 に関する情報

- ・公式 HP：[20th 3D GeoInfo & 9th Smart Data Smart Cities](https://www.3dgeoinfo.jp/)

#### ■3D GeoInfo & SDSC 2026 に関する情報

- ・公式 HP：<https://conference.gate-ai.eu/ISPRS2026/>

#### ■3D GeoInfo & SDSC 2025 に関するお問い合わせ先

アジア航測株式会社 <https://www.ajiko.co.jp/contact>

「製品情報お問合せ」からアクセスいただき、担当者名に「3D GeoInfo & SDSC 2025 担当」とご記入ください。

## 2.上位アクセス状況(集計期間：2025.9.1-10.31)

登録ユーザー数	124,048 名
期間アクセス数	676,862
登録組織数	718 件
データセット数	14,879 件
ファイル数	100,030 件

#### 人気のデータセット

1	VIRTUAL SHIZUOKA 静岡県 中・西部 点群データ
2	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 東京都 23 区
3	VIRTUAL SHIZUOKA 静岡県 中・西部 点群データ LP データ オリジナルデータ
4	林野庁 国有林 GIS データ
5	林野庁 林野庁・CS 立体図 (能登地域 2024)
6	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 大阪市 (2024 年度)
7	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 新宿区 (2023 年度)
8	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 渋谷区 (2023 年度)
9	東京都デジタルツイン実現プロジェクト 区部点群データ
10	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 港区 (2023 年度)

### 3. 最新のお知らせ

G空間情報センターの最新のお知らせは[コチラ](#)

※「3D 地理空間情報の活用推進に向けた提言書」に関する情報下記にもあります。

最終更新順データセット一覧は[コチラ](#)

\*リンクを開く際、少しお時間がかかる場合があります。

### 4. デジタルツインが拓く、空間情報の新たな可能性



ESRI ジャパン ソリューション  
営業グループ 課長

石井 洋平

#### 1. 空間情報とデジタルツインの融合

近年、都市やインフラの管理において「デジタルツイン」という概念が急速に注目を集めています。これは、現実世界のモノやプロセス、関係性を仮想空間上に再現する技術であり、GIS（地理情報システム）との融合によって、空間的な文脈を持つ高度な情報モデルの構築が可能となります。

ArcGIS は、こうしたデジタルツインの基盤として、建物情報モデル（BIM）、ネットワーク情報モデル、都市情報モデルなど、複数の情報モデルを統合・接続する機能を備えています。これにより、単一の施設から都市全体、さらには自然環境までを対象とした包括的なモデリングが実現できます。

たとえば都市計画においては ArcGIS Urban を活用することで、設計者や行政担当者がシナリオベースの計画を立案し、影響評価をリアルタイムで行うことが可能です。また、ArcGIS GeoBIM は、BIM と GIS の連携をワークフローのレベルで支援し、建設プロジェクトに関わる多様な関係者が、地理空間の文脈に基づいて情報を共有・分析できる環境を提供します。



図1：GIS とデジタルツインの相互接続

## 2. リアルタイムデータと予測分析の力

IoT センサーやリアリティマッピング技術との連携により、現場の状況を高精度に把握し、リアルタイムでの監視や予測が可能です。ArcGIS Velocity を活用すれば、ストリーミングデータの処理・分析・通知までを一貫して行うことができ、設備や施設運用の最適化に貢献します。

たとえば送電線と樹木の接触リスクを自動検出し、保守作業の優先順位を最適化する事例では、GeoAI による画像解析と機械学習が活用されています。これにより、年間数千時間分の作業時間を削減できます。

また、ArcGIS Reality や Field Maps などのツールを活用することで、現場でのデータ収集やリアリティキャプチャが容易になり、現実世界の状況をフォトリアルな 3D モデルとして再現できます。これらのデータは、都市景観やインフラの変化を視覚的に把握し、環境モニタリングや災害対応にも活用できます。



図2：デジタルツインのライフサイクル



### 3. 持続可能な未来に向けた情報基盤

デジタルツインは、単なる 3D モデルではなく、データの取得・統合から、分析・予測、共有・協力までを支える情報ライフサイクル全体を包含する概念です。ArcGIS はこのライフサイクルを支えるエコシステムとして、現場とオフィス、行政と市民、設計者と運用者をつなぐ「デジタル神経系」の役割を果たしています。

都市規模の取り組みにおいては、スマートシティやスマートコミュニティの実現に向けて、都市情報モデルの活用が進んでいます。そのため、ArcGIS によるシナリオ計画は、住民との関係性を深め、持続可能な都市設計を支援する強力なツールとなっています。



図3：米国マサチューセッツ州ボストンにおける 2D/3D データを統合したデジタルツイン

以上のように ArcGIS は、空間的な文脈をもとに、複雑な情報モデルを統合し、誰もがアクセスできる環境で、リアルタイムの状況認識と意思決定支援を実現します。これからの社会において、デジタルツインは単なる技術ではなく、持続可能な未来を築くための戦略的な基盤となると考えています。

■本記事内容に関するお問い合わせ先：

[ESRI ジャパン株式会社 お問い合わせ窓口](#)

## 5. 「3D 地理空間情報の活用推進に向けた提言書」を関係機関へ提出

AIGID が参画・運営している「3D 地理空間情報の活用推進に向けた研究会」より、この度「3D 地理空間情報の活用推進に向けた提言書」を関係機関に提出いたしました。

この研究会は、2024 年 12 月からの準備期間を経て今年 9 月より正式に活動開始をしました。

今回の提言の内容のポイントとして、データコンテンツの精度・鮮度に関する点及び管理・流通面の大きな 2 分野について、時代に合わせたオペレーションの必要についてまとめています。

ぜひご一読・ご活用いただければ幸いです。

[3D 地理空間情報の活用推進に向けた提言書](#)

## 6. 【動画公開中】UDC2025 中間シンポジウム



### アーバンデータチャレンジ2025 中間シンポジウム

2025年**10月25**日(土) 13:00~17:00

<https://www.youtube.com/@OfficeUDC>

主催 一社) 社会基盤情報流通推進協議会 (AIGID)  
東京大学空間情報科学研究センター (CSIS)  
東京大学生産技術研究所 (IIS)  
東京大学デジタル空間社会連携研究機構 (DSS)  
協力 一社) コード・フォー・ジャパン (CfJ)



去る 10 月 25 日に埼玉で開催された、アーバンデータチャレンジ 2025 中間シンポジウムの様子（ライブ版）が現在 YouTube で公開中です。

### G 空間情報センターお役立ち情報

◆ G 空間情報センター F A Q は[こちら](#)

法務省登記所備付地図データ関連の情報等、よくあるお問い合わせを掲載しております。



◆ G 空間情報センターの YouTube チャンネルをご活用ください☆

G 空間情報センターの使い方解説や、最新データセットの公開ご案内等、動画でご案内しております。チャンネル登録いただきますと、新しい動画の公開通知等が取得可能です。ぜひご活用ください。

◆ G 空間情報センターサイトからのお問い合わせは、該当のデータセット名と URL を併せてご連絡いただくとスムーズです。

可視化データ事例募集！

G 空間情報センターでは、現在メールマガジンに掲載させていただける可視化データ事例を募集中です。

G 空間情報センターに掲載されているデータで可視化イメージを作成された方、ぜひこの機会に G 空間情報センターメールマガジン読者にシェアしていただけませんか？

掲載の折には、細やかながらお礼を差し上げます。

■ ご連絡先

メールマガジン担当：保坂 [hosaka@aigid.jp](mailto:hosaka@aigid.jp)

ご意見・ご要望について

G 空間情報センターは、高度な地理空間情報社会の実現と皆さまの事業の発展に寄与・貢献できることを目標としています。

当センターへのご要望、ご意見、ご助言等ございましたら、遠慮なくご連絡ください。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

G 空間情報センターのユーザーアカウント登録は、[こちら](#)

G 空間情報センターのご要望、ご意見は、[こちら](#)

G 空間情報センター

一般社団法人 社会基盤情報流通推進協議会(AIGID)

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 1-10-5-304

Email : [info@geospatial.jp](mailto:info@geospatial.jp)

※当ニュースレターの内容、テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます。